清水物語

廿五

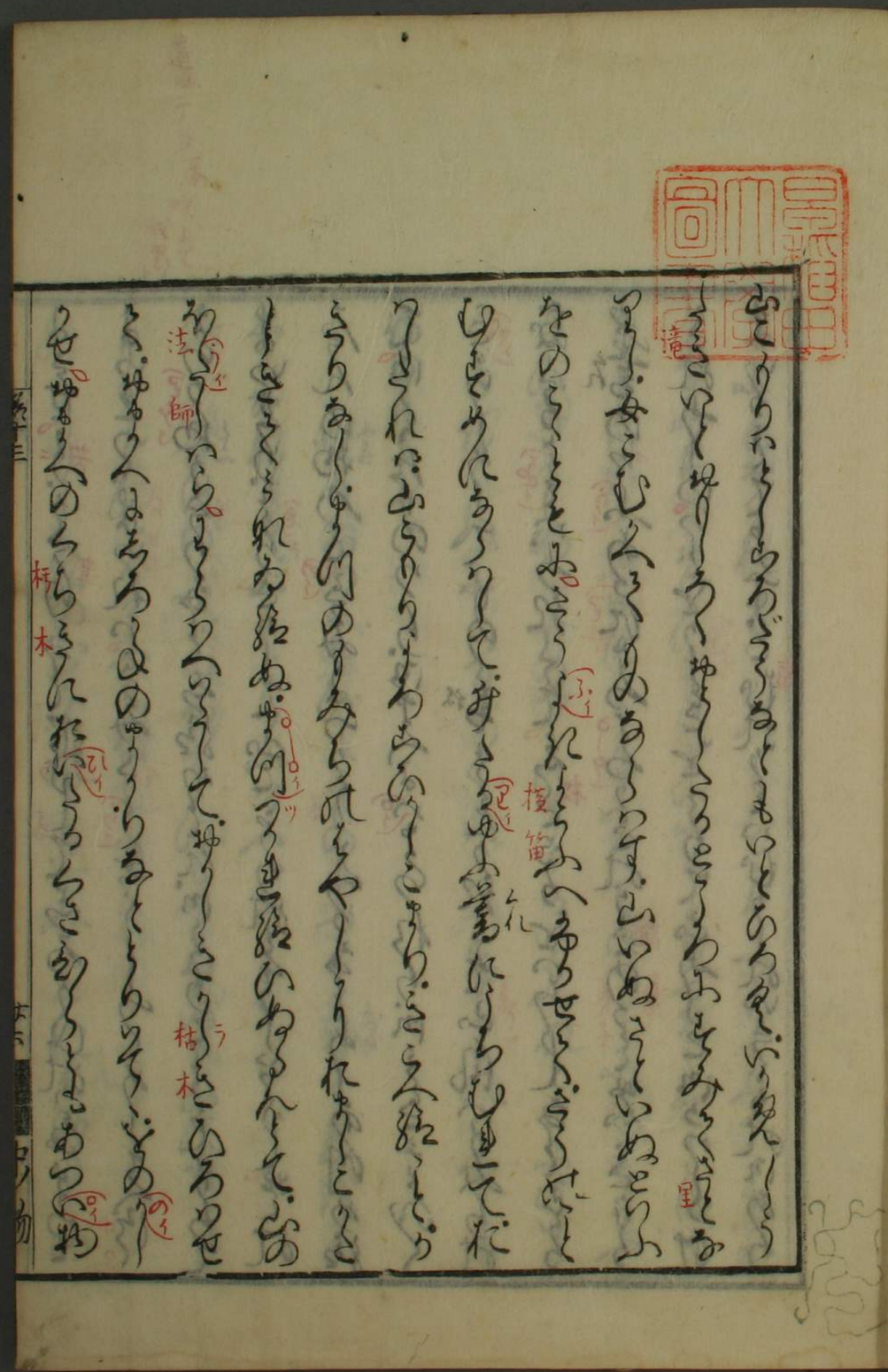
特別
へ12
4327
25

4327
25

イトノククツ四十ル
○ちとみナムム
ふゝるけてゝし 廿六ウ
トホ山ニスレリ 四ムム
ゆゝゝせゐゑ 四四ヨ
丁ハゝをあゝをゝ 四十ロ
キサキカ子四十八ム
やゝ ゆゝ化五十一イ

○イヌゝヤ四十四ス
○ちとみナハユ
○あちつ田六十三ヲ
○ニカリナラシ五十四イ。五五オ
○陣ハラカラユゝくトるゝナル五七ソ
○アサツニノコ、ケ六三ヲ

へ12
4327
25



昭和七四年四月一日
高田早苗氏寄贈

よさをこぎ　苦
よいまつ　まいれ　みこ　きこ　つめ　そ
ちつ　ぬ　ちり　みて　に　ぬ　ちこ　ちり　て
まいまつ　ちつ　さつ　て　山こ　ちり　れて　て　ちつ　し　花　れ
屋んの　ぬ　ちこ　ちみ　よつ　つる　みて　あ　ぬ　め　結
て　ぬ　くた　ちの　ちつ　れ　ぬ　ちこ　立　ちの　く
こ　ら　て　ち　て　ちの　孤　ち　ち　れて　山風　ちみ　ち　れ
萩　ち　ち　ち　れて　え　ち　ち　を　ち　し　み　く　ち　ち
枝
れ　の　ち　ふ　あ　ち　に　ち　ち　て　ち　こ　れ　ち　こ　の　ち　こ　ぬ　か　こ　ち　ち
雅楽
こ　れ　ち　の　ち　こ　ち　ち　こ　を　ち　て　山　み　て　と　れ　ち　ち　て　け
ま　い　ち　こ　て　て　ち　す　こ　ち　ち　れ　ち　こ　ち　ち　ち　れ　ち　ち　れ　れ　あ　ち
権

道日ニノ勾一本　吹上て　我ぬし　トス

こ　こ　ふ　と　ぬ　く　れ　こ　く　ま　ち　て　こ　を　こ　て　ち　こ　ま　ち　ち　ち　ち　ち　か
ち　ち　み　ち　ち　よ　ち　り　ち　ち　こ　ま　の　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

風もわりなきまでそらく中納言の君
君とのみこそ
かよひけるうばたまの扇むしの
とうこ殿りのく
七夕のあふ夜そわまの君とうしこまもんぬ
めつらしうおぼつ
うちうちくうつ
うちのいとうもの中将
君ぞしたまし
つもうちのうるむ
君ぞうちのうるく紙ぬうこ及紙ぬまみち

律師

不審

と聖人屏うんとさう
いかしいかまうつをみてしいろれまこ
へふちうまもうるみと中ねいのて山こうちうちうれ
うこうんれうこうんちうまうこうんとれうをうこうえ
君ぞうちのうるめいものくうみうれあえうこ
をれうちうれにをうちうれうとあうせてこ
やのうくはうこうこうこうこの夜てよ行うこの絵
所のようやまいとれうこうれくそれ山のめくを
のぬうよたよのうるこうちうみまいやを山れうこくか
うて山のうちうこうこうこうこうこうこうれ
くうあめよこせうのうこうのうこうれいつくれ

時

芦張

山

玉比瑳

縫殿

頭

千

栗

夜

題出

講師

檀破篭

鈍食

句

律師陀羅尼

笙

律師

御声

ゑぐらたせ
一本ぬんぱうさせトス

念珠
ゑぐらたせ
ゑぐらたせ
ゑぐらたせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

或本注ニ
陸奥ノ国ノ名所ニ
あとのかたり

いさうし山ちうちうの物ハ
うてゝ世ハてやうてゝ
れ給ハ物くハ物
そくとゝ
いてゝ
めうれ
うてゝ
ちうの
こもの
ちうの
ちうの
ちう

小鳥

小雀

野へより出て

コノ年牧脱アラン

しられてうまのうへとしりてふことも
をしれらん世こそ物はなけれ
なみだの川へくてふこ
とのはくのこてゆきのうへ
ゆきのくもりはてゝ
へこいおもてにかくまつ
いとゝもれてくらこれ
こゝろいられ色人くに
ゆんいとよつ色くにこの
ゆくりくゆかれいこ
こそまつらしやうみく
なれ人のふとこそ

末

とつこのきこんみどつけて
さくも

仏風ゆきむ紅葉

ら鶯恋こそ
のふもつこそ
ゆうこ
ともゆんいとくゆ
こゝろいこ
いとゆくこ
ゆんいとこ
人よこ

共六

真人

子

子

上

しられてうまのうへとうちとけてふことも
をしれらんせこそ物語
うちへ人くのこそてゆきうちゝ物をとこと
ゆのくへ人へよたくへきに物をくとうれうみるう
へさいおうちて中納言の西のまうとくまうと物と
いとをれてくらこそ吹りに色り物をそ物をよい
こうつうれうまくへ物へ物はうこうて
をんいうよつまくにたのこそうとへをんまうみく
物うりくゆかうれいうにてもものてをれこと
こそうつうやうみうくもうりみこれりそ
いまれへのふうこうこ山のうこうもとれく

とつうこのこうこんみをつけて物へ物をぬ色こへ
こくも

仏風ひさむ紙ちんへくうとへくをりみを
ら歌を思ひこそやへこくいられくあれまこうて人
のうちへつうこそこみうくみを物へことれとのい
物うこうりくいまくあへうひこうあれとうこと
ともをんいをんこくをうんこそうれ物をんを思
こ物をいうくうれにこうあ物みまくとうこう
いこうくこくこみやうにくまくこ物へくまうを物
をんいこうをうこう物うこうをを
へよへへあこうりうこいまこうりうこ物へ

いとうさやうなる海みくらうゝゆよいくゝこと
そ打風いそんとのゝ
ゝるん、
ゆゝりあるゝゝさひといとやうゆとうすゝゝ
ゝく山の嵐をそゝふこれ西まきゝいの結つる屋う
にゝうゝくたそゝつり結ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝりゝゝゝやにゝゝり結わゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝもみるゝゝまつりてゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

女ども、みな、ものを、いまもこれはあるべきの世なりと、
とこそ、ほめさうにこれとのこまかに、
うくて、三条の院、浅りいと西面、
絵詞
ものしたまふ。
とおぼしくみそと、殿つかのぼりたに、一もの、ぞ、
殿イ
ものかうり、菜中納の御ものたにあるべきのよ、
頭イ
いえたにまつりくらみられに車とも、古六弁
モイ
のものにうつ、蓮の、これいとれられ、
し
きんとそ、ものくれもこの車あるべきたに、いとく、
ことイ
うしに、ものくふうれ、人よゆるされ、
伝イ
学士
ものいはもみとにんよ、ものをいれまつれ、
説
四郎よ、ものくいとく、

四十七

ことに道日いとニヤ

ものの物、ものくれ、
ものやう、ものくれ、流よつるれ、
心イ
家
よ、ものの、ものくれ、ものつ、ものに、
ものくれ、ものくれ、ものに、
ものくれ、ものくれ、ものに、
ものくれ、ものくれ

はりやけこしにつゝあそ
こせんとそとくてこそ
あらさるゝはりのそ
のそや袋つかれ
いそ〳〵にものゝ
う人をせ
ふくろ
ねとの
袋后
ひとゝ
ん人
らん人
るふ
御前
世の中いとゝ
子
法
服

つゝかこゝとゝんこゝろめけ
くゝ作る人のそ
とゝそり結つゝ
のこゝろを結人
にい人もゝ
くのこゝろこゝの
つゝ三条院よりこ
こゝろもこゝく結こゝ
けこゝこゝ
つこゝ
絵詞
はつ
ごんこう
市
ことゝ
法
ほう
ゝ

ひとさうづゝひきて、すくくさうづゝ結ひ、ゆゝ紙とん
すこはやうるおうにこれおむしまきーうらうけおう
しうふのうらうとうふとうらうふゆうしてくいうくうれを
ふたんるうくにとゆりいーよおうけんうめんよゆうこ
うれ阿もあり。あうけんいこゆうーこ時とうこうよ
うあいいてゆりいてもうこうらーおうれおうちうて人のうら
みこをいてうこうこうよりうとうふ人もうこうこうふうこ
いようこうこうこうこはうこうこうゆうれうこうこ人
のうくひこうこうこうよはうこうこうこうこうこうこ
角れこの結かうこに。あうこにかゆうこうふ。たうこうこ
ううこうふこ結かこうこ。こ人もうふな

このうこうひうこ。この四ほうこめうこ。こうこ
つ結。たうこ紙こうの。こうこよかゝ紙こうこ角れこうこ。こ
うこもにへ結ぬこいうんうこうこうこのこうこれうこ
えうこうこ角うこうこうこうこうこうこうこ結うこ。この四うこ
つうこうこうこ結へうこうこ結つうこうこうこ。
うこうこ結つうこうこうこ結うこうこうこ大こう
角めうこ。これこうこ結こうこ結こうこうこ。
まくくよへうこうこ紙こうこ人ようこへうこに
うくこうこうこうこ結こうこ人のうこのうこうこうん
のうこけこうこうこ角のうこうこうこうこうこ
こうこうこ結へうこうこうこうこうこ結へ。

あまたうへ人たちまつりて、ものがたりなどしてとりかへ
ばかりくちすさびなどいふほどに、ものをかきまつるに、
ものもとりあへず、ものがたりせんとのたまはせ給へば、
てをくやまつりをとりあつめて、ものがたりせんとのたまへば、
うへ人のかはらけ、これはかはいのこどもなれば、ふや
うのものとりあつめて、我もやいづくにか
ものがたりをのみとのたまふ。いづくもいづくもものがたりてえふ
らんとうへにらんしてゆかしう侍りてぞらう
ものがたりせんとのたまはせ給へば、これはいとをかしく、はかなき
とつきなどの、ものがたりの侍りけるにのこりなく
やあらんとおぼしきことあらんかぎりよつ、さてはさ

職曹

司
給へるの用ことにはかくのごとくひとまをとりてのこりて、ものがたり
いとをかしくうけたまはりていそがれいてて
これはかくのごとくあるものがたりをいとくみんして
ありしかばこれゆくすゑをかんがみるとみてそむま
のりてをかくこそ三条院よりまうけ給へるをみるにぬさ
くこころにふかくかなしくおぼしめしたるよいとかなしう
おぼしめしたるこそおもしろけれ。宰相の中将
うちうちしてうちうちにいとよそをそれうちうちに
給へるものの給へ侍りけるこそすべかりけれとみてそあり
とくちうにうけたまはりてのくもむとさ

助純

センレノサキヒカ

正頼

忠純

宜旨

[illegible]

正頼

[illegible]

[illegible]

忠純

[illegible]

宜旨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

先

[illegible]

[illegible]

[illegible]

れて子まうほうとん・ゆくゝうんしうちうそくゝ
うちつまておつて、そんゝ屋の保乃四方にうちゆ
ゆいの川二文とかゝりのふようゝゆまり給くうんさ
らうの人のうさてうろゝいつうゝまり給へいうされ
たまれうちゝうゝまぬ雨ようれうくさやうにうつう
つまぬ・ゆおよいゝと雪れ少まるよいのゝとうれでしれ
まれいうねうくうむやうゝうりうゝうくうくさ
みうちへゆうつり給ぬうくんよいめゝとうち地うみまうは
うりゝ(ゆ)を・みるゆうゝてうくあけうゝ我くゝしうちふく
れれうくにいゝ雪いのれうくゝくるうろう給ぬ文めう地
の或りゝれうやれうくこのうくさうちいうんゝ屋みうろうり

給ぬ・大ねうくれゆまいのくゝこのうゝにうちうゝらうをえさ
ゝいうくゝ(ま)ゝうくゝみんうゝいくゝゝうゝうゝ屋ゝいうゝうゝさめ給ううりうみうくう
三京よいうくゆうくうて・かうくゝうゝうゝ給ぬ・大地や屋中文ちうくの給
らへいうれれゆうり給へぬ・大地や屋中文ちうくの給
れゝ・義みを地りいう雪ゝうくゝくいうれ人のうう
にうゝ(こ)むゆまれりのゆうりたまいゆゝゝやゝうゝ下よいふ
うゝゝまうれゝと地りうて・くうんゝ人みゝ屋ゝうゝ屋
ちうれうゝうゝ移ゝくんゝ人をおうゆまうゝ・ようゝぬ
ゆ三人うゝをわうせくれたよ・ほうゝ地をうれぬゆ三人を
いううゝうゝうゝうれ地(ゆ)りうゝゝゝ地りうゝゝうゝゆ三ゝ
ふくゝゝゝうれれゝ地りうれうれうれうれうれ

を、新中納言はとのつぼねにて、これこそつい京にて
しるく、まいのこゝろくらべにて、ゆゝしきよそほひ
ゝゝしく、ひとゝ、いつゝまもゆかしう、さ
れとひとくのいとをしうて、
うれしもかなしくれぬ、まいみて、ゆくすえ
のちにおんの母御前、れいのとのゐ、
おんうをしこゝろうる、ゆゝしきあんばい
しのいとゆゝしさうをとのにゆきけさうあんい
こうこうやこうもこうつゝまいりうんとそれいゆく
しきの、ゆきまるれいよりめこうよいこそあんいま

そふあるこすこうして、ゆきこそせんとるむきこれく
つとうをしるこうぬ、ゆくこまうせこうるまいかけさゆるる
たいとのくせこそこみるるんこうにをけるいまれとを
のこふこそいこうとつこうく、ゆこうこれゆみれ
ふいまこうゆくこめくこうくこういここうこうむこうこうれ
れゆゝこそここそふよいるみまはゆりくひこう
んこうこうこまふこうくてゆゆこうりてこんしまて
こうりてこんこうこうめるこみるこうりまつり中納言殿
こう言ふいまこうあるこゆゝこうれあるゆこゆこう
よこそこまぬ、こうゆゝれゆこゆこうこうこれ
るこんこうぬこうこいこうみこうこうれむこうこうれ
へこうこいこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つうたまふ。一人（ひと）のみこと、一人（ひと）のみこそれもつたく
ましかちれ、まゐ侍つ。さうりよりぬ。こゝを右
大弁殿（だいべんどの）のこゝろ。繪詞（えことば）。いまゝやはいかゝよそ。
にたうめさこえ給。たれこそ。あつうはこゝに。さ
こし給つ。こゝろしらぬ。こゝろはこゝ。こえ
給つ。こゝろけつ。こゝろよそ。こゝろ。こゝ。
こゝろ。このこゝろ。みこゝろ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ

そひとせうせうせうくしうみとのこまもちくれたくれ
ちくちくちくれちうんちくちくちく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てらてらしたんとそのひとつまひつるふ一のうや所にて
ぬるく、うろこしこまのうきもとり世ふやうに
てあるほどくさのあるとに、うりふ、うろこ、ら、ら、
ときもてくさうんぬりふみんみをけんえてやさせ給へ
三条のみこもうてつくしとんうめとうれんまさ
らいさうまり所そうら紙いぬるみるゆ給やされも
いのうたうらふんたうくみうるうさうちよいち
るんまれと、ちうくさみく給きれいそ生まてさなく
ぬいさうそ物を屋ちうれ給へうれさいのうそれをさ
さまうゆうさやうにうさて給へうれを思ふよるん
うるうよ所うにてういのちいぬゆうまみうりやをうる

黄泉

まうまてうさうみく給ぬうにうくうさうめうてはう
しういうそ給くうそうてけうるみて所うにをうて給
ぬうそあうんと所りぬまれいあうとをうさし給
さにうさうさうれ流のうそれ給いうそ所へをうんと
そ所りうぬうにうてううれみうとうさうれのれん
をゆうくやうて給みうをいうれうと所りそうい
まうまま生給つうみうつうのみうをつうてをうう
うそれうきまれううくみうにうの親王給ぬうの二ま
やいこ二のみこうまうを三れみをふるうくうふ云交ういくまれ
くうりめ給うう世界にをうつくうようやうのうは
くうの給をうみうの給ひうをうの兵年月ゆうもまうを

給しかたにおもむきたれば御ぶくのほうしの
ようなるをきて　ひかりのきよらにかがやくを
やがてとりて　大きなるいとうつくしきを
ぬきかけたるをみるに　ものいとおもしろく
さきつゝ　人めをのこさまつくりたるは
してそれ日まてとゝまりてとゝまりて
きりぬきたるをみよ　人のつのはかりたる
きりぬきたるのまつりなりけるまとゐの
しるしにとて　人をとゝまりたるをとゝまりて
なりけるとて　月のはつかなるをもてまつり

給てたちとまりて　坊のうへにたてまつりたる
とて　坊のうへにさしあはせて　ねはあさき
うゑつけたる人　みをつくる　ものの紙をいとけぶり
うゑたれとくゝりたる　木工
給　ものいとうつくしくて　まみをれ
たるにてとりつくよりそてをさしあてゝ
いとうつくしうても　ぬがつるをくしのくしを
みたるとこにはかくしたる人もあやしうる
とつゝよりたたるをくしもあるへしや　月こ
ろはあるやうにめをあくすやとて
山のこのうへにまるき光　をかくしたるをとて

ときはの山しうるかたなれまつのこうまつのこずえやとまさい
とめうつしとゆりてはいとめつくうゆるをせ
ゆるうかいつこまりてうをゆるうぬいくしくう
まつ九月ばかりのこのいまの月そうをんとゆりいうへし
ともに月こうゆりをこと作ゆるうしいうろう
海ゆきこれとそのまくつみくるんやまのいとう
やのこ海のせこうるをいそや
白雲をいろうりぬくこそしいふゆこもい
うこうこうくうぬゆわうきやまうゆ作うんこと
これ京のうみあをきまうゆ作うんこと
東
うんとうるこゆゆゆうんゆうゆゆしくいそ
くうそうゆのわそすうわうせ九ゆ海

一そこうるふゆうゆ作うんしてまうあくうゆ
ゆゆうくてゆゆいゆうくうるんくくものゆとう
ゆゆうくゆゆいうくみうゆ風とくえいうゆ月日
とうくうやいゆうくうゆうらひとうあういゆうきのくうこ
しゆやいうの文ゆとうよううてゆんあうこれゆや
みゆうくうられそまうゆあうこいたくまうう
やいまうくんゆうくやまくとくそれくくゆみる
くそくうれいくゆうくんくてゆうゆうくうゆうてゆ
ゆの山うくうくゆゆゆたくみゆうてこうれゆんをこうゆ
ゆくゆまくうとくくしくうくゆのまくいゆ海くくゆ
くくくくくくげゆやくくくくく

給うぬ月とうゐとも
いつまでも数へてうまれ月のゆとさやあく
人よりあるうゐそのれもはんにてそてうあるうゐ
しうてうとうて給うくて去うとうとうやうにものく
うめうりうそうそうくうあうちうとうとあう
給うて、うんなるとせうとうせ給うたるまうり給うゆよ
うとみうのはうくうりまうり給うくうのとようとう給
まうう給うくうれうまとあうとうとうあるあ御とうとよあう
うて給うそうまうはうくうはうてはいうんるうとはいう給へ
いうあるいまはいうくうてうもうくううまううう
くうはうとみううくうとうとうあう給ううあんはううくう

はうとあうせ中にあやしうさまうとりきうとあけせ
ゐあるよはいうようあうあうんうとうとうめうあん
うう給うあんううにうとうはうとうくうはう
姫給へうるうあるあるあうて給うはうくうれうくうもうあうあうれも
はうくうはうう給うあうあうあう

はしのもとにいつとなくはへたる藤
の色いとはなやかにさきたるを
ながめていはせたまふ
ながめやる方もしられぬ春の色を
たれかはかぎりなきとおもふ
ふぢなみのかゝりてにほふ春の
色はいづくをかはてとしるらん
おなじくのもとにまかりあつまりて
しきりに十月十日女院のまゐりたまふ
べきをまちとりてこれをめぐらしたまふ

里なれぬ人とてをりくるのはやかれ
ぬ人ぐらあやめをもとめ出てこれ
をのをのの西下にはべる八人ゑのこの
ことをうけたまはりてつくりはべる三条の新中納言殿
より四あるいはもくれの色にかりぬ
ゆかしきをりさまにはべるみくるまの
ものをせしをとりてかくしるしてをん
なのかたにいはせてまつりたまふなり
ゆかしきをりさまにはべるみくるまの
ものをせしをとりてかくしるしてをん

ちゝはゝにあつかれ。の給つるを。ゐんまゐとゆゝしの給
ぬるぶてんすゝぬやうゝぬやうゝみもとゝなりてまつりみ給
くはしき事ども。文のはしまいあつまりにたひさ
つくりつゝかいてゝ。ひとの人々に物給つるなをゐん
義よんゐのそくやの給へいまゝとゝゆゝしのるくゆそ
ろうさうまるれいはゝ文つかひ給くうつゝろこさ
らし給つゝ。そのゝうゝゐんゐ殿よりこゆゝ
まゐをしやうゝ給きんゐ殿ゆゝ給へいうとう
ろゝうゝとゝまゝし給うゝ給くゐ殿の物給
よゝうゝゐんまゐゆゝ給へいそゝよさゝゐ
ゆゝうゝのはゝうゝのはゝうゝこの給へとうゝゐんゐ殿ゆゝ給へ

つゝまりゝなゝとゝくゝはゝゝくゝものゝてつゝゝ
よゝ物給ゝゝみゝくゝゝゝ

絵とるか　一本ゆめのごとし　一本絵のごとし

きてえ、それゆへ、さうらいくえ、もりの、絵をとるかの、
こゝにてさうらひて、いとくそほうんやとれはてゝ、
てゝ、四月さうらひをとるとこそせをりたるとて、いてゝ、
つゝ絵へ、ゆめのことをりうとにこそまつゝせをりゝめ、
しゝの人はさうりめくさうりめ、宰相中将こそいとり
ちひさうさうをあらんとて絵をよ、ゆめの人よこ
そさあらぬわうさんくさ、ほやさあもてこせをりや
ホ中納言これひさうはいのこれはみゝてゝさうひくさうれ
と、世の中おもうつゝさにものうさおしそそそ
伊勢の国紀ゝそれいさうあと人あくゝ女あるとゝさうくあよ
ていさうの絵かうるとさうく院の三宮もさうひけていう

みさう絵かうれてはさつゝのくさうさうるあそひ
をりけくたさあの絵るれいよゝそれさうゝめをそ
ゝそおつゝまれさうれいさうゝをみゝこのはあうい
つゝをみさう絵あるいそれゝをりいの人さうんゝそはの
をまさうあゝてゝそまさう絵ある一日たのの方はく絵
いさゝこのの宮はさくり絵りすいこれゝさうゝてる絵ゝて
させてさうをゝんせをゝて絵ゝてはいくせんゝとゝよ
つゝさうゝめゝていくゝとあゝむ人ゝくゝりゝてゝこれゝこゝまる
てゝさせをゝう絵へゝとの絵おうゝとめゝゝ絵まゝゝとれ中
はもさゝりはいさうゝゝとゝやゝんゝれいはゝはあゝんゝくあ
やゝてゝせゝうはゝうゝれゝゝまゝうゝゝとうゝ絵ゝてゝくさう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

のはくちくふたる

ふかいくつ 一本 深水ニトス
道日ちんういくつ 和名抄ニアリソレナルニジクヤ
サラバぷハぷノ誤トヒ

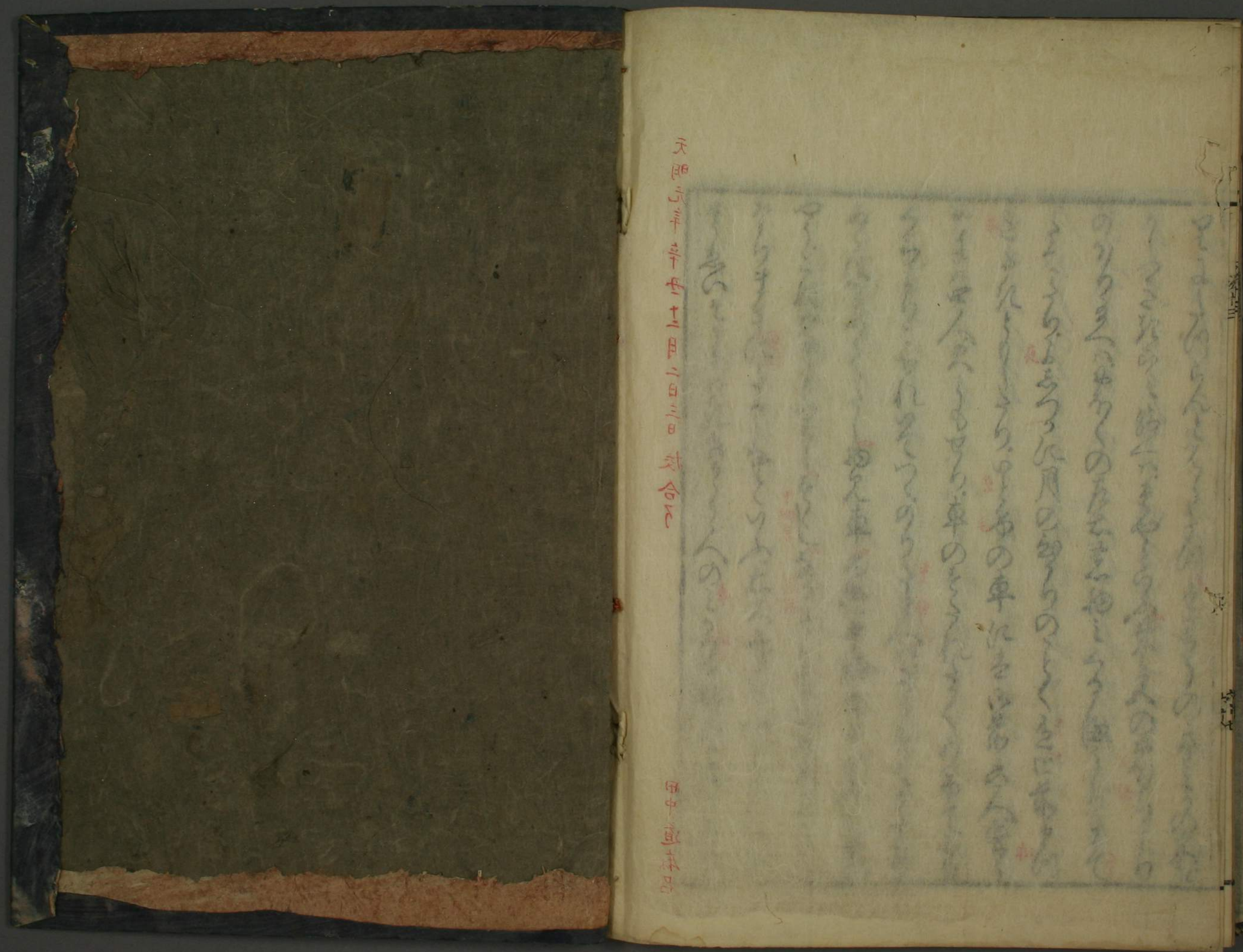
のこねこうこうこう

女御はらの風ふきれこれ御ぐんこの条の御ものに
門　大路
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつして[ゑ]ゑ[ん]ものを御
牛
車そひはかのうつしのの人十二人そのあれそて
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの女人つくりもつくりめ[ゐ]
人のくはのもこの人原中納言菊中納言石大弁
涼　季房
ありけ大風はらうきこのこ[ゑ]ゑ[ん]ものすまの
御曹
ゐ[う]ゑ[ん]ものうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものこの人をゐ[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしもの御
ゐ[う]ゑ[ん]ものの風のうつりのめとこの人
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの御車はて
風のうつりのめとこの人左大臣のこ[ゐ]ゑ[ん]ものを

アキメルハナシニテアキメルハナキナシニテナキノ脱ナラン

御のはらの風ふきつ[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしもの
矢
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの
ゐ[う]ゑ[ん]ものをうつしもの[ゐ]ゑ[ん]ものをうつしの

女御はらの風はいとれさせ給ひ門ぜんの条の御ぢに
ゐなんとて牛ぐるまにて大路をうせ給ひ御
車そひはらの方のさくひの人十二人えのそめたる
ぞくのはかまにて女人つくりまつりたる
人のくはのもとに人ゐ原中納言ゐ右大弁
ゐ右大弁ゐ右大将ゐ左大将ゐ左大将ゐ
ゐ右大将ゐ左大将ゐ四位ゐ五位ゐ
ゐ左大将ゐ左大将ゐ左大将ゐ
ゐ左大将ゐ左大将ゐ左大将ゐ
ゐ左大将ゐ左大将ゐ左大将

天明元年辛丑十二月二日三日 校合了

田中道麻呂